

令和5年度 学校マネジメントシート

【様式】

学校名 (三重県立度会特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「力のある特別支援学校」 ○「教育力のある特別支援学校」 児童生徒の人権を大切にし、最大限の発達と進路保障を追求する学校 ○「対話力のある特別支援学校」 家庭・地域社会と連携し、常に相手の立場に立って考え行動する、地域に開かれ地域から信頼される学校 ○「組織力のある特別支援学校」 チームワークに徹し、進んで支え合い学び合う、働きがいのある学校
		○「将来の夢」や「なりたい自分」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学校生活を送ることができる子ども。 ○自己肯定感や自他ともに大切にする人権意識を持ち、地域社会で生きていける力を身に付けていく子ども。
(2)	育みたい児童生徒像	○ 児童生徒・保護者の教育的ニーズや願いを把握したうえで、一人ひとりに応じその可能性を伸ばす指導・支援ができる教職員。 ○ 肢体不自由児教育に対する高い専門性を持っており、自信を持って授業を行う教職員。 ○ 子どもや保護者、同僚との会話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。
	ありたい教職員像	

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><児童生徒> 安全で楽しい学校生活、卒業後の自立と社会参加</p> <p><保護者> 専門的な肢体不自由教育の充実、高等部卒業後の進路先確保、児童生徒一人ひとりを大切に信頼できる学校</p> <p><地域の小中学校等> 特別支援学校のセンター的機能の充実、交流及び共同学習の充実</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> 進路先や福祉事業所と学校の一層の連携 <関係機関(福祉、医療、労働等)> 支援にかかる情報の共有 障がい者を雇用することに対する不安の解消 <地域の学校> 児童生徒の居住地校との連携による相互理解</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 早期からのキャリア教育における連携の推進 <関係機関(福祉、医療、労働等)> 肢体不自由の児童生徒の支援・介助等に対する理解の深まり <地域の学校> さらなる積極的な交流及び共同学習の実施</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>校内研究や個人の研究等は、度会特別支援学校の財産である。Web等を活用してもっと発信するとよい。自立とはいかに依存先を増やせるか、という観点から、自立活動の一つのねらいとして考えてみてはどうか。</p> <p>教員の多忙感を改善していけるとよい。忙しくても休憩を取り、少しでも何か一緒に取り組み、楽しむこと(コミュニケーション)が組織の一体化につながる。業務の偏りがあるので、業務の効率化をできるとよい。ストレスチェックを利用し改善点を探るとよい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の障がい重度・重複化・多様化が進んでいることから、児童生徒一人ひとりの実態に応じた教育活動を行うため、肢体不自由児教育に係る専門性及び授業力の向上が必要である。また、ICTを活用した授業実践を進める必要がある。 自立と社会参加につながるキャリア教育を全学部で実施するとともに、センター的機能を発揮し関係機関との連携を深め、進路先の充実を図る必要がある。また、共生社会に向けて交流および共同学習を工夫して実施する必要がある。 教科横断的な教育活動において、教科のねらいについての確かな評価を行い、成果を積み上げるよう教育課程を再検討することが必要である。 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとって安全で安心な学校となるよう、防災や感染症対策など教職員の危機管理への意識向上を図る必要がある。 ・昨年度の不適切な言動の事案を受けて、不祥事を根絶し、保護者から信頼される学校となる。 ・保護者・地域への情報発信のため、ホームページの充実が必要である。 ・円滑に公務を運営するために、会議の精選と効率化を図るとともに、教員間の連携・協働を強化し、業務の偏りを解消し、総勤務時間の縮減を図る必要がある。 ・松阪・南勢地域の特別支援学校整備に係り、関係機関と連携して準備を進めていく必要がある。
-------------------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育活動を行うため、系統的な進路学習やICTを活用した取組を推進し、肢体不自由児教育の専門性の向上を図る。 ・交流および共同学習の取組を通して、児童生徒が生き生きと生活できるよう地域とのつながりを深める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの意識を高め、児童生徒および保護者、関係者からの信頼にこたえられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動を行う。 ・安心して安全な教育環境の整備を進めるとともに、感染症対策や防災等における危機管理の取組を推進する。 ・組織の見直しを進め、効率的な業務の進め方について検証し、働しやすい学校となるよう改善を進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動 ※定期的にチェックが必要なもの ◎最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程の 編成・系統的な進路指導	(1) 児童生徒の実態に合った年間授業計画をもとに適切な授業時間数を出し、教育課程を見直す。 <教務部> 【活動指標】 ・各学部での検討 【成果指標】 ・令和6年度教育課程に適切に反映される。	【活動指標】 ・個別の指導計画の児童生徒一人ひとりの課題を達成できる授業時間数になっているか、年間計画が課題を達成できるようになっているか、各学部で年間指導計画と教育課程の見直し。 【成果指標】 小中高の系統性にも留意しながら、R6年度の各学部の教育課程に反映できた。	
交流及び共同学習の推進	(1) 児童生徒の居住地にある学校や近隣の学校等との「交流及び共同学習」を進める。 <研修部> 【活動指標】 ・居住地校交流の実施 希望者 1 回以上/年 ・学校間交流の実施 各学部 3 回/年 【成果指標】 保護者満足度調査の結果 ・交流及び共同学習(居住地校・学校間交流)について、「概ね満足」以上の保護者80%以上 (2) 交流及び共同学習を通して、本校の児童生徒の理解を進める。 <研修部> 【活動指標】 ・年度末に居住地校交流と学校間交流の相手校に調査を行う。 【成果指標】 ・相手校の児童生徒にとって、交流をして「よかったか、概ねよかった」と返答した相手校80%以上	【活動指標】 (居住地校交流) ・小学部 15 人、中学部 3 人が希望し、1 回以上の交流を行った。相手校と相談し、感染症の状況を考慮して、対面交流やオンライン交流を行った。 (学校間交流) ・各学部で年間 3 回実施することができた。小学部は、オンライン交流を 1 回と対面交流 2 回を行った。中学部と高等部は対面交流を行った。 【成果指標】 ・交流および共同学習について概ね満足以上の保護者は 94% であった。 【活動指標】 ・居住地校交流の相手校にアンケート調査を行った。学校間交流の相手校には意見を聞き取った。 【成果指標】 ・「本校の児童生徒と居住地校交流をさせていただき、貴校の児童生徒にとって、交流をしてよかったかに「よかった、概ねよかった」の回答が 100%	

		であった。 ・学校間交流の相手校と交流ごとに、話し合いを重ね、児童生徒の様子などを情報交換しながら、児童生徒の実態に合わせた交流ができた。今後も交流を進めていくことを確認した。	
命を大切に する教育の 推進	(1)児童生徒が「多様な考え方を理解し、互いに認め合い、自己肯定感を高める取組み」を進めていく。 <主事部> 【活動指標】 ・「命を大切にする教育」の取組み 1回/学期 【成果指標】 ・取組みが「個別の指導計画:学習の様子」に記録される。	【活動指標】 ・小学部では「なかま」「集会」の授業、中学部では「道徳」「ことば」、高等部では「道徳」の授業を中心に、友だちや家族のこととその大切さを題材とした学習を学期に1回以上実施した。 【成果指標】 ・児童生徒の心身の変容や成長が個別の指導計画に反映された。	
	(2)いじめ、体罰防止の推進。 <いじめ防止委員会> 【活動指標】 ・アンケートの見直しを行い、学期末ごとに聞き取り調査を行う。 1回/学期 ・毎日のクラスの話し合い、学部会等での情報共有をこまめに行う。 【成果指標】 ・認知したいじめを解決 100% ・体罰事案発生 0件	【活動指標】 ・学期末にアンケート及び懇談会等で全児童生徒及び保護者に聞き取りを行い、情報を共有した。 ・放課後に行っているクラスの話し合い(反省)で児童生徒の共有を行っている。 【成果指標】 ・認知したいじめ 0件 体罰事案 0件(12月末現在)	
改善課題			
活動指標、成果指標とも概ね達成されている。交流および共同学習の推進については、昨年度までコロナ禍による影響で交流学習は計画通り実施できなかったが、今年度は概ね実施できた。また、作品交流も行ったことで、保護者の満足度は高かった。今後も交流の方法について検討していく必要がある。			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上	(1)一人ひとりの課題に応じた「自立活動」の実践を目指し、教員の知識を深め、専門性の向上を図る。 <研修部> 【活動指標】 ・校内研究 10回/年以上 【成果指標】 ・職員満足度調査の結果、自立活動における知識や専門性が向上した教員80%以上	【活動指標】 ・自立活動に関する各自の課題についてまとめたものをテーマ別のグループで報告し、意見交換することで知識を深め、実践に生かした。 ・年間10回実施 【成果指標】 ・職員満足調査の結果、自立活動における自己の指導力が向上した教員は87%であった。	
	(2)専門資格を有する本校職員または校外専門家の専門性を有効に活用し、全教員が「パワーアップシート」の作成を通して、実践的指導力の向上を図る。 <研修部> 【活動指標】 ・校内外の専門家の助言を受け、パワーアップシートを1年間かけて作成する。(全教員) ・パワーアップシートと申し送り表を活用して実践事例報告形式で「自立活動研修会」を行う。 2回/年 【成果指標】 ・「自立活動研修会」終了後のアンケート結果、「自立活動」に	【活動指標】 ・全教職員が校内外専門家の助言を受けて、パワーアップシートを作成することができた。 【成果指標】 ・基礎講座や通院同行等で専門家の助言を受けることで、パワーアップシートの作成に努めるとともに、日々の指導にも役立っている。87%の教員が「自立活動研修会」終了後のアンケート	

	<p>関する指導力が向上した教員80%以上</p>	<p>で、「自立活動」に関する指導力が向上したと回答した。</p>	
	<p>(3)GIGA スクール構想における ICT 環境 (iPad、支援機器類) の整備と活用を進める。また、授業力向上のための研修会を実施する。 <情報教育部></p> <p>【活動指標】 ・情報研修会 5 回／年開催。</p> <p>【成果指標】 ・研修会により、ICT を活用した授業力が向上した教員 80%以上。</p>	<p>【活動指標】 ・教職員の ICT 活用能力向上をめざして、研修会を4回実施。あと1回開催の予定ではあったが、他の研修会と重なり、開催できなかった。</p> <p>【成果指標】 ・「ICT を活用して授業力が向上」と多くの教員が回答。</p>	
<p>センター的機能の 発揮</p>	<p>(1)本校が有する肢体不自由児童生徒の支援スキルが保幼小中学校や地域の支援機関と共有されるための研修を実施する。 <進路支援部></p> <p>【活動指標】 ・本校における見学及び体験研修等 6回／年以上</p> <p>【成果指標】 ・見学者や研修参加者等の感想で「概ね満足」が80%以上</p>	<p>【活動指標】 ・学校見学での体験研修を4回実施。来校相談は2回実施した。電話相談は5件あった。</p> <p>【成果指標】 ・学校見学の参加者は7名。来校相談の参加者は5名。見学者や研修参加者等の感想では「概ね満足」以上が100%であった。</p>	
	<p>(2)通学区域の保幼小中学校に在籍する肢体不自由の児童生徒を把握し、ニーズに応じた計画的な支援を行う。 <進路支援部></p> <p>【活動指標】 ・巡回相談を行う中で、体験研修を5件／年以上</p> <p>【成果指標】 ・相手校等の本校の支援に対する満足度調査で「概ね満足」以上90%以上</p>	<p>【活動指標】 ・巡回相談は33件実施した。</p> <p>【成果指標】 ・巡回相談時を依頼された保幼小中学校へは、年2回計画的な支援を行った。来校相談を行った学校に対する満足度調査では「満足」という回答だった。</p>	

<p>危機管理能力の向上</p>	<p>(1) 安全安心な教育環境の整備と防災機能強化を進める。 <総務部・生活保健部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全クラスによる緊急対応訓練を1学期中に実施する。 ・感染症対策研修会、救急救命法講習会を実施する。 ・避難訓練実施(全校2回<火災・地震>、不審者対応 1回、スクールバス救援出動2回、スクールバス引き渡し1回)／年 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、本校の危機管理対応について「概ね満足」以上 90%以上 ・職員満足度調査の結果、本校の防災対策が向上した職員80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応訓練はほぼ1学期中に終わることができた。 ・アレルギー対策研修会と嘔吐物処理研修会、救急救命法講習会を8月に実施。 ・避難訓練は2回実施。スクールバス救援出動訓練は6月・11月に実施。スクールバス引き渡し訓練は6月に実施。不審者対応訓練は1月に実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、本校の危機管理対応について、「概ね満足」以上 96% ・職員満足度調査の結果、本校の防災対策が向上した職員92% 	
<p>学校運営の効率化・同僚性の向上</p>	<p>(1) 内規及びマニュアル等を円滑・適切に運用し学校運営の効率化を図る。 <企画運営委員会></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後に開催する全員参加の会議・研修会の60分以内に終了 90%以上 ・定時退校日を月1日と長期休業中に設定するとともに、定時に退校した職員 90%以上 ・学校閉校日を年4日以上設定 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの月平均時間外労働 10時間以下 ・1人当たりの年間休暇(年休・夏期休暇)取得日数15日以上 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 <p>(2) 組織運営の在り方を継続的に改善し、「やる気」と「元気」がみなぎる組織風土を醸成するため、学校改善活動に取り組む。 <総務部・></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営品質向上活動にかかるミーティングを実施 1回／年 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査の結果、日々の仕事にやりがいを感じている職員 80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月末現在、60分を超える全員参加の研修会や会議は 23回あり、60分以内に終了は93%である。 <p>【成果指標】 (12月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月平均時間外労働 約7.3時間 ・年間休暇取得日数 約17.5日 ・時間外労働(45時間以上) 5人 <4月3人、5月1人、11月1人> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の親睦を図る目的で7月に「わたらいオリエンテーリング」(オフサイトミーティング)を実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部を超えた活動を実施する中で、他学部のことを知ることができたなど、今後の教育活動に参考になったという声があり、好評だった。 ・日々の仕事にやりがいを感じている職員 95%(R4 77%)。 	
	<p>(3) 児童生徒一人ひとりに応じた誠実な支援により、保護者・関係者からの信頼に応えられるよう、人権尊重の態度で教育活動を行う。 <学校信頼向上委員会></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会開催 8回／年 ・コンプライアンスミーティング5回／年 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、「学校は、人権を大切にし、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っている。」概ね満足以上の保護者90%以上。 ・職員満足度アンケートの結果「学校全体として、自由に意見を言えるような雰囲気がある」概ね満足以上の教職員 80%以上。 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会 6回開催 ・コンプライアンスミーティング 1学期に1回、夏季休業中に1回、2学期に2回開催。3学期に1回予定。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、人権を大切にし、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っている。」98%(R495%) ・「学校全体として、自由に意見を言えるような雰囲気がある」69%(R462%) 	

改善課題

概ね目標通りの成果が得られたと考えられる。専門性の向上については、本校職員は年齢構成に幅があり、経験年数が少ない職員も多く、指導技量については差があると感じている職員が多い。現在も自立活動や特別支援教育の専門性の向上をめざした研修会は実施しているが、肢体不自由教育の専門性の向上につながる研修の在り方について検討していく必要がある。学校運営の効率化・同僚性の向上については、昨年度比較し向上しているが、教員の多忙化については改善できなかった。より良い教育を行うためにも、余裕をもって作業時間及び情報共有が必要と考え、業務の縮減につながるものが今後の課題となる。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">●教育活動について概ね目標が達成されている。特に交流および共同学習については、これまでの学習の積み重ねもあって、十分取り組みを行っていただいている。今後も継続した取り組みをお願いしたい。●学校運営についても概ね目標が達成されている。保護者満足度アンケートからもわかるように高評価を得ているのは素晴らしいが、アンケートの見えない部分を考察しつつ、更なる信頼関係を構築することができるよう取り組んでいくことが大切である。●職場の同僚性、職場の業務への取り組み方が課題である。●ストレスチェックにおいて、健康リスクが高いので改善に向けた取り組みが必要である。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">●障がいの重度・重複化が進んでいることから、一人一人の教育的ニーズに応じた教育実践を行う必要がある。今後も更なる専門性および授業力の向上に向けた取り組みが必要である。●ICTを活用した授業実践活用できる教職員は増えてきた。一方、本校は基礎疾患のある児童生徒が多数いる中で、長期欠席者も多い。暴風雨・大雪等の災害時における家庭との連絡ツールとしてだけでなく、教育保障の観点からもICT教育のさらなる充実が必要である。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">●学校業務の偏りによる多忙感解消のため、職場の雰囲気をも明るくするように常日頃から職員同士の対話が大切である。また、多様な働き方、個々の特性等を踏まえ、それぞれの立場を考えてお互いを助け合い、協力していくといった協力・協働の意識を持つことが大切である。そのためには、日ごろからコミュニケーションを大事にすることや情報共有を密にすることにより、信頼関係を深めていく。また、組織として業務を円滑に進めるうえで、一人一役の業務分担ではなく、複数で責任を分担しながら業務を進めていくことが大切である。